

私が千晶さんを知ったきっかけのツイッターも話題に上りました。千晶さんのツイートを読んで私が感じたことと同じように感じている人がいたこと、とても面白く感じました。聞いて「わかるわー、わかるわー」の連続(笑)一人で知らない人たちの集まりに参加するのは勇気のあることだったと思います。でも一歩踏み出してきていただけただけで、嬉しく思いました。



『もっと早く来てみればよかった。そうしたらもっと松野さんの気持ちがあわかったのに』

と千晶さんは何度もおっしゃってくださいましたね。

そう、言葉や写真ではなかなか伝えられない。行ってはじめてわかることってたくさんある。その場の風景、空気、温度、ざわめき。。きっと、私がこの街に恋しているように、日本全国、いろんな場所で、街に恋している人が沢山いる。

だから、たとえどんな田舎町だとしても、犠牲になったり、見捨てたりしていいとこなんてない。街を思う気持ちは同じなのに、疑心暗鬼になって、本音を言えないなんて状態を作りだしていいわけない。などと感じました。



千晶さんの、『豆ランチパーティーではその場で一番知らない人に合わせる』というの、印象に残っています。参加者の恐らく一番若い女性が、『私のことです！』とおっしゃっていたのが、とても爽やかで心地よかったです。あの素直さ、謙虚さがさらに場をやわらかくしてくれたのかなと思いました。

とても私一人ではこの場を作ることはできませんでした。素敵な時間を本当

にありがとうございました。

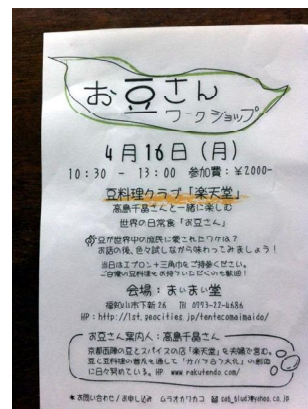
私は子供がいないのでこんな表現適当かどうか分かりませんが、一人目を産むまでは苦しくてしんどくて、もう産まないなんて思っていました。産んでみたら、もう一人いてもいいかな。。。なんていう気持ちです。

産み出した場が、成長して独立して、新たな場となっていくたら楽しいな。次の子は、また違う個性を持った子なんだろうな。どんな子になるのか、、、今回ご縁のなかった方も、次の場を産み出すのに立ち会っていただけたら嬉しいです。

## 豆ワークショップ@福知山 (4/16)

高島 千晶 (たかしま ちあき)

企画して下さったのは、豆料理クラブ会員のむらおかわかこさん。京都から福知山に越してまだ半年なのに、こうして地元とつながりを作って、さっそくわたしを招いてくれて、なんとお礼を言っていたいかわかりませんでした。会場のまいまい堂さん(手づくりお菓子とフェアトレードコーヒー&雑貨のお店 HPあり)にあつま



るお客さんたちが、ほんとお店を愛していることが伝わってきて、感動しました。すばらしいお店でした。まいまい堂さんでのワークショップのあと、綾部の水田さんが福知山にもつ麦畑に連れていってもらいました。水田さんの玄麦を仕入れさせてもらって何年にもなるのだけど、美しい畑の麦を見せてもらうのは、はじめて。ずっと一度行きたかったです。水田さんとまいまい堂さんが10年来のつきあいだったことも、今日初めて知りました。

そんなこんなで、はじめて行った土地だったのに、旧知の仲のように、皆さんとお花見でビールまでご馳走になりました。



### お知らせ

**第1回起業セミナー 4/29 (日) <自営業40年の歩みを振り返って——これからの人に伝えたいこと>** 講師:オーガニックライフサポートSORA代表・川内たみさん 時間:10時半~4時半 会場:楽天堂 定員:12名 ※一般の方も受講可(先着順/塾生優先) 受講料:塾生4500円/一般6000円 申込:4/22(日)までにメールなどでお申し込み下さい(締切厳守) ※手作りのアクセサリ販売から始まり、東京西荻窪に雑貨店「ジャムハウス」や女たちだけの食堂「食べものや」を開き、その後は粘土のポディクレイの開発に携わったり、現在は生活雑貨の卸やインターネット販売を営んでいるたみさん。豆料理クラブ会員でもある私達自営業者の大先輩に、人生の歩みを語っていただきます。

**第1回ワークショップ 5/20(日)【事例研究 鳥取・水越屋】** ※塾生対象 参加ご希望の方は起業塾に入塾して下さい。  
**第3期基礎講座 7/8(日)・8/12(日)・9/9(日) 全3回** ※塾生対象 参加ご希望の方は起業塾に入塾して下さい。

## 共同で店をもつ (3)

## 終わらせることとコミュニケーションの方法について

岡 聡一 (おか そういち)

ものごとを終わらすということがニガテです。一般的にものごとは始めるよりも、終わらせるほうがエネルギーを使うと言います。自分のことをよく思い返してみたら、仕事を辞めるとき、恋人と別れるとき、うまく終わらせた記憶がありません。「終わりよければすべてよし」というのは、終わらすことの難しさと大切さをあらわしているのではないかと、思います。終わりに近づくとつれて、投げやりな態度になってしまう自分がいます。それを思い出して、さみしい気持ちになってしまう自分がいます。小学校3年生のとき、書道の習い事をしていて、それがイヤでたまりませんでした。母親が書道に精通していたので、小学校に入学するころから、自然と習字の教室へ行くことになっていました。それにどこか反発していたのでしょうか。辞めると決めてから、通うのがしんどくて、最終回は泣きながらヤケクソになって半紙に殴り書きしたのを覚えています。それから20年くらいたちますが、わたしは進歩したのでしょうか。

さて、トリペルが閉店するのです。3月15日に閉店ですので、この『らくてん通信』がでるころにはもう閉まっているでしょう。終わらすというと、どうしても後ろ向きになってしまいます。発展的な終わり方、というものを考えたいものです。

店を閉めるときに気づいた大切なことがあります。「継続は力なり」というシンプルな一節です。実を言えば、ようやく最近常連のお客さんがつき始めたのです。ポツポツと、同じお客さんが毎日のように、来てくれているのです。「閉店を決めたから、それを惜しんでお客さんが来てくれる」というのもあるかもしれませんが、それだけでなく、1年半以上続けたその地道な結果が、目の前にあるのだなと、しみじみと感じたことを、知人に話すと「3年くらい続けなきゃだめだ」と返されました。まさにそのとおりだと思ったのですがしかし、3人での共同経営というのは、続けること自体が、すごいことなんだと、一度認めてしまいたいのです。というのは、経営的な部分を考える前の段階で、コミュニケーションに、かなりの時間を割かなければならないからです。たとえば、ちょっとしたメニューのオペレーションの変更を思いついたとします。一人でやっているならば、すぐにやり方を変えたらすむ話です。が、3人でやるとなると、それぞれのやり方を確認するために、①話し合いの場を設定し、②やり方の変更を検討し、③やり方を実際に変更し、さらに④それで問題がないかさらに話し合うという手順が必要で、もちろん、実際にはこんな厳密な手順は踏まず、省略するところもあるワケですが、省略すると、なんとなく誰かがガマンしている気がします。わたしは、ものごとを決定するときに、ものごとを決定することそのものよりも、ものごとを決定するに際する気持ちや態度をお互いに確認するのが重要だと思っています。が他の2人はどう思っているのか。そんなことよりも、何かをさっさと決めることそれ自体の方が重要なのでしょうか。

それはさておき、トリペルは、3人が日替わりで店に立つため、同じ時間に同じ場所で働くことがないカタチ。その結果必然的にコミュニケーションの時間というのは別に設ける必要があります。コミュニケーションの方法というのは一般的に、会議などの話し合いを想像しますが、そうではない場合もあります。

それは「一緒に同じ作業をする」と言う方法です。このあいだ、店の備品を3人で整理するという時間がありました。そのとき一番に感じたことは、一緒にコトを行うのってなんてステキなことなんだろう、ということです。これ以上書くと長くなるので残りは想像にお任せしますが、いつもの「単なる会議」と違う何かを得られたのはたしかです。京都のあらゆる地域の町の中華料理屋さんではケンカが絶えませんが、それにもかかわらず家族経営が続けられているのは、「共同作業」のたまものだと言ってもいいのではないのでしょうか。いずれにせよ、「共同で店をもつ」ことは「共同で時間をもつ」と言ってもいいくらい一緒に時間をかけて何かをやるのが大切だと感じます。

さて、今の自分が成長した自分であるならば、終わらせることをスマートにできるのでしょうか。わたしの今年の書初めは「破壊と再生」でした。投げやりにならずに、丁寧に向き合いたいものです。

この連載、「共同で店をもつ」ことがなくなっただけ、どうなるのか。まだ続けさせていただけのならば、次号の『らくてん通信』でお目にかかりましょう。



## 「実践！起業塾」のご案内

何年前の新聞で、あるフランス人尼僧の新聞記事を読んだことがあります。その方はフランスで仏教（禅宗）に興味を持ち、日本に来て得度、今は名古屋の繁華街で托鉢しながら尼僧としての生活を送っているそうです。「日本人は多くを求めすぎ」と語っていたその女性の、「尼僧は職業ではありません。一つの生き方なのです」という言葉が忘れられません。

その伝に習っていえば、自営業も（サラリーマンや公務員などの職業の一形態ではなく）生き方、そのものでしょう。では、どのような生き方なのか？私達はその理想（モデル）を、古の近江商人の家訓「売り手善し、買い手善し、世間善し」の“三方善し”にみえています。私達なりの言葉で表現すれば、“身の丈にあった自営業”——我が身（＝仕事を通して自らの務めを果たしつつ、家族が養える程度で足るとする）、人の身（＝他人と分かち合う）、地の身（＝地球環境との共生）の3つの身を重ね合わせて、善しとする——という生き方です。

この塾は、次のような方を対象にしています。

・“身の丈にあった自営業”を志向する方／現に自営業を営んでいる方／仕事（職業）を通して自分を見つめ、公民として社会の一翼を担っていきたい方

塾では、私達の経験や知識を伝えるだけでなく、塾生が相互に研鑽できる場でありたいと思っています。具体的には、次のような活動を行っていきます。

・メーリングリストの運営／基礎講座やセミナー、ワークショップなどの講座を開催／インターンシップの受け入れ／カウンセリングの実施

今働いているかいなかを問わず——学生や主婦、第一線を退いたシルバーエイジの方を含めて——どなたでもご入塾いただけます。入塾費3000円・年会費3000円（豆く会員1000円／基礎講座を受講の場合は無料）詳しくはHPをご覧ください。